

前期
年度() 試験答案用紙

松阪大学

科目名	学年	組	A	番号	93005	参照物件	得点
担当者名	フリガナ	氏名	石田 修二				※

日本関係について

— さるに強固な日本関係に向けて —

冷戦終結後、日本の外交政策も従来の対米一辺倒から変わり、カンボジアでのPKO活動に参加したりするなど、もとより他国へ向けたものになりつつある。しかし、それは対米政策が軽視されているものではない。^{日米関係は}従来のように、重要なものである。

日米の関係は大平洋戦争後の占領時代を経て、次第に強固なものになり、両国間に安全保障条約が結ばれたり、両国の閣僚がお互いを訪問したりするなど、政治面ではかなり関係が強固で^{強化されてきた。}ある。しかし、今日のコメ、自動車などの問題を見ると文化やビジネスといった分野ではギクシャクしていると言わざるをえない。

このようなことが起こる要因は、日米両国がいまだ相手に対する認識が不足しているからであると思う。アメリカに行く日本人の中には日本人同士でコロニーを作ってしまう、アメリカ人を入れないこともあるし、アメリカの生活になじまず、どこへ行っても日本の生活という人もいて、アメリカを理解しようとしないうところがある。一方でアメリカ人も「世界中が英語を話すべきだ」と考えているのか、日本語を話そうともしないし、かれようとしなない。これでは日本の理解などとても無理である。これでは日本間で議論しても相手の言い分を理解するのは難しいし、反論しようにも反論のしようもない。

このように一部でギクシャクしている問題を解決するには、~~また~~相手に対する認識が必要である。例を挙げれば、市民間での交流やホームステイの数の増加、そして相手の言語を理解することである。そうすることによって日米の関係は真の強固なものへ一歩近づくであろう。

• 内容は、8(9)とある。
• 簡潔な文章に心がけよ

一文は
短くし
短くし
短くし

より深い
or
より深い